



【ブロック支部からのお知らせ】

支部長・役員交代のお知らせ

日本プライマリ・ケア連合学会の役員改選に伴い、2020年9月に東北ブロック支部長を坂戸慶一郎先生から小幡篤先生に交代いたしました。坂戸慶一郎先生は2年間東北ブロック支部長として、支部規約の改訂などガバナンスの整備、ブロック支部学術集会などの活動促進に取り組んでいただきました。今後も役員としてご協力をいただきますが、支部長としての2年間のご尽力に感謝を申し上げます。

支部長	小幡 篤	みちのく総合診療医学センター しばた協同クリニック
副支部長	長野 正裕	長野内科・胃腸科
	菅家 智史	福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座
幹事	石井 正	東北大学病院 総合地域医療教育支援部
	加藤 博之	弘前大学医学部附属病院 総合診療部
	齊藤 崇	秋田厚生医療センター
	坂戸 慶一郎	健生黒石診療所
	作左部 大	秋田厚生医療センター
	佐藤 裕邦	介護老人保健施設うらら
	下沖 収	岩手医科大学 救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野
	高橋 潤	公立置賜総合病院 総合診療科
	畑澤 千秋	秋田厚生医療センター
	星 利佳	星薬局
	松岡 史彦	六ヶ所村医療センター
監事	葛西 龍樹	福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座
	川島 孝一郎	仙台往診クリニック
顧問	濃沼 信夫	東北医科薬科大 臨床管理学講座
	本郷 道夫	公立黒川病院
	矢島 恭一	上田診療所

支部長あいさつ

日本プライマリ・ケア連合学会 東北ブロック支部

支部長 小幡 篤

(みちのく総合診療医学センター、みやぎ県南医療生活協同組合 しクリニック)



ばた協同

東北地方は6県すべて人口当たりの医師数・医療従事者数が全国平均を下回り、広い面積ながら人口密度は低く一部の都市部を除いてほとんどが医療過疎地域となっています。医療供給体制が十分でない地域ほど家庭医・総合医といった **generalist** の役割が大きいことはすでに共通認識となっており、先の東日本大震災においても大きな被害を受けた太平洋沿岸部はほとんどが医療過疎地域であり、その地域の医療の維持復興に家庭医総合医に大きな期待がかけられたことは様々な報道でも明確になりました。

家庭医・総合医の育成は日本全体の重要な課題となっていますが、医師数の少ない東北地方ではそのニーズが非常に大きいにもかかわらずまだそれにこたえられる状況になっていません。一方で地域の医療ニーズにこたえるべく元々の専門領域にとらわれずプライマリ・ケア領域に従事し活躍している医師・医療機関も多いことも事実です。東日本大震災後徐々に育成体制が整備されつつありますが、それを推し進めるためにもこうしたそれぞれの地域で活躍する仲間が集まり連携して、東北地方のプライマリ・ケアを担う人材の質的量的発展に努力することが重要であり、日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部のミッションはまさにそこにあると考えています。高齢化・過疎化の進行する東北地方の医療・福祉を守るためにぜひ多くの方にこの活動に参画していただけることを期待しております。

またこの領域は昨今その重要性が叫ばれている多職種連携を元々大変重視しています。本学会は家庭医療専門医・プライマリケア認定医といった医師の研修・資格認定のみならず、プライマリケア認定薬剤師や学会認定プライマリケア看護師といった多職種の育成制度を整備しております。東北ブロック支部においても学術集会では医師のみならず薬剤師・看護師・ケアマネージャー・自治体担当者など多職種によるシンポジウムやワークショップを常に企画し連携を推し進めております。現場での医療はもちろん従事する各職種の質的・量的向上を目指した育成も他職種協同で発展させていきたいと考えております。ともに学び育て地域のニーズにこたえられるよう私たちの活動に加わっていただける方を広く求めています。

ブロック支部としてもこの目的達成のための様々な企画を提供していけるように努め発信していきたいと考えていますので、ぜひご協力いただければ幸いです。

【支部学術集会】

第10回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

(「東北医師会連合会総会並びに学術集会」分科会)

大会長：齊藤 崇 (秋田厚生医療センター)

日時：2020年9月12・13日

場所：にぎわい交流館AU (秋田県秋田市)

テーマ：よりそう・つながる…地域・家族・ひとを支える



プログラム概要

2020年9月12日(土)

13:30-13:40 開会式(大会長・JPCA 東北ブロック支部長挨拶)

13:40-14:20 基調講演 日本プライマリ・ケア連合学会 草場鉄周 理事長

14:10-15:10 特別講演 「医療人のプロフェッショナリズム」

講師 福井大学医学部 福井大学医学部地域医療推進講座

特命教授 寺澤 秀一 先生

15:20-17:20 シンポジウム テーマ:「地域に求められるドクターGとは」

座長:市立大森病院 院長 小野 剛 先生

大館市立扇田病院 院長 大本 直樹 先生

パネリスト:福島県立医科大学 会津医療センター 総合内科学講座 講師

宗像 源之 先生

公立置賜総合病院 総合診療科 診療部長 高橋 潤 先生

六ヶ所村地域家庭医療センター 船越 樹 先生

山王胃腸科 院長 最上 希一郎 先生

大館市立扇田病院 副看護部長 豊口 明子 先生

岩手県保健福祉部 長寿社会課 主任 湯沢 克 先生

2020年9月13日(日)

9:30-11:00

【分科会1】すべての医療者・介護スタッフのための、患者中心の医療の実践
～「かきかえ」で学ぶ、患者さんのホンネ～

【分科会2】「在宅・救急連携の問題点・在宅医療と救急医療の連携を考える・
救急から在宅への提案」

【分科会3】ガンガン出よう薬剤師、どんどん活用しよう薬剤師
～地域医療における薬剤師の役割と課題～

11:10-12:40

【分科会4】臨床推論道場

病歴聴取でここまでわかる『胸痛』・『めまい』の診断ポイント

【分科会5】在宅医療と介護連携 在宅緩和ケア・スムーズな介護医療連携で
QOD(尊厳ある死)を支えよう

【分科会6】COVID-19からACPを考える

9:30-10:30 Expert Seminar 1 小児のプライマリ・ケア

【秘密のアソコちゃん

—プライマリ・ケアで遭遇しうる小児の陰部病変—】

講師：秋田厚生医療センター 畑澤 千秋 先生

10:40-11:40 Expert Seminar 2 緩和ケア入門

講師：秋田厚生医療センター 作左部 大 先生

11:50-12:50 Expert Seminar 3 高齢者心不全

講師：秋田厚生医療センター 齊藤 崇 先生

今回は思いもよらず3月以降の世界中を混乱に陥れたコロナ禍に巻き込まれ、全く開催の見通しがたたないまま5月も過ぎ、さらにはいったん終息したかと思われた後第二波襲来があり茫然としておりました。6月4日、東北医師会連合会で正式に予定通りの開催が決定、当会はWEB配信との併用で開催するという大枠が決まってようやく様々な準備が走り出しましたが、果たして皆さん参加して戴けるのかを含めて当日を迎えるまでハラハラドキドキの毎日でした。最終的には幸い、会場延べ72名、オンライン参加延べ284名と予想以上の参加を得られ安堵しております。また、懸念していたことではありましたが、学会期間中は幾度となく配信トラブルには見舞われ、何とか全プログラムを終えることができましたのは皆様の御尽力のおかげと感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

第11回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

大会長 葛西 龍樹 (福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座)

日時 2021年9月を予定

会場 福島県

開催方法 オンラインの活用について検討中です 追って会員の皆様にご連絡いたします

【県支部活動】

日本プライマリ・ケア連合学会 第3回岩手県支部研修会 Zoom Webinar

日 時： 2020年11月7日(土) 14:00~17:00

会 場： Zoom Webinar

参加費： 無料

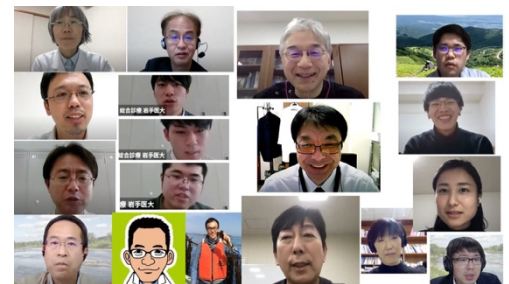
主 催： 日本プライマリ・ケア連合学会岩手県支部

後 援： 岩手県医師会、岩手県立病院医学会、岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県地域医療研究会



岩手県支部では去る11月7日、岩手県支部研修会をWebにて執り行いました。

第3回を迎えた当県本研修会ですが、今年は初のWeb開催となり、多少の通信トラブルには見舞われたものの無事に開催でき運営本部としてほっと胸を撫で下ろしております。



内容を振り返りますと、第一部は「一般演題」と「指定演題」でありました。一般演題では4題の発表が集まりました。希少な症例報告、非常に興味深いアンケート研究2題、そして今後のモデルケースとなるであろう貴重な活動報告という濃密な内容でした。また、指定演題では2018年に三重の全国JPCAで宣言された、健康格差に関する行動指針の検討委員および作成協力者であった、坪谷透先生、杉山賢明先生に、「健康の社会的決定因子と社会的処方」について、御発表いただきました。SDH（健康の社会的決定因子）に関し初心者にも分かり易いようご説明いただくのみにとどまらず、プライマリ・ケアに従事する多職種が共通認識すべき点や果てはCOVID-19との兼ね合いにまで言及され、日常の医療でSDHを意識すること、そしてその気づきを周囲へ拡散してよりよい社会の構築を目指す重要性を啓蒙いただきました。

続く第2部では2019年より福島県立医科大学会津医療センター総合内科の教授として赴任され、ドクターGのレジェンドのお一人としても有名な山中克郎先生をお招きしました。風光明媚な会津地方の景色を交えながら、同地方のプライマリ・ケアの現状、実際のコロナ肺炎の症例およびクラスターに関する考察を中心に講演いただきました。質疑応答では若手会員から熱のこもった質問が寄せられ、とても有意義な対話が交わされました。

なお、当日ご都合がつかない方のために、お申し込み頂いた方には、後日一定期間アーカイブで当日の内容を視聴できるように致しました。今回の試みを通じ、コロナ後の新しい研修会のカタチが見え、また県支部会レベルでも成功を収められることが明らかとなりました。

岩手もコロナ感染者が増加しつつあります。厳しい日々が続きますが、県支部として引き続き東北のプライマリ・ケアの充実と均霑に邁進していければと思います。

報告：岩手県支部副支部長 坂本和太

医学生企画「実践 総合診療外来！」

日時：2020年11月29日14時～15時半

場所：しろにし診療所(山形市城西町)

主催：PCersYamagata, 日本プライマリ・ケア連合学会山形県支部

PCersYamagata,および日本プライマリ・ケア連合学会山形県支部共催で、11月29日(日)しろにし診療所にて医学生対象のセミナーを行いました。事前に参加者の行動報告書を取り、県内のコロナ感染状況に充分留意しオンラインで開催しました。当日は、山形大学医学部学生さん3名にご参加をいただきました(4年生2人、2年生1人)。

『外来診療を体験し、「現場で役立つ身体診察」を持ち帰ってもらうこと』、『ビデオレビューによる振り返りを通してスキルアップに繋げること』をテーマに高学年と低学年に分けてセミナーを行いました。

高学年には症例を提示し、問診・診察から診断する臨床推論の型を学んでもらう内容で行いました。問診・診察はとてもスムーズに出来ており、診断までしっかりこぎ着けていました。ビデオレビューを活用したことで自身の振り返りだけでなく、学生同士の意見交換ができており、有意義なものとなりました。低学年には症例を通して血圧、呼吸回数といったバイタルサインをしっかりと取れるようになる内容で行いました。1対1のレクチャーで初めは緊張感があったものの徐々に和み、習熟度を高められるセミナーへと繋がりました。学んだバイタルサインの取り方を通して行い、ビデオレビューで振り返りましたが、自信をもってバイタルを取ることができていました。

会全体を通して学生さんがこの会に興味をもって参加してくれたことがひしひしと伝わり、オンラインならではの熱量の高い会に出来ました。コロナ禍ではありますが、今後も学生さんが興味をもって参加してもらえる企画をつくっていきたいと思います。

※報告：山形県支部 川瀬隆一（至誠堂総合病院 内科）

